



# 刻歩極頂

長井市立西根小学校  
学校だより第3号  
令和4年5月13日

「刻歩極頂」(こくほきょくちょう) 一步一步の歩みを大切に 頂上にたどり着く  
長井市初代名誉市民 孫田 秀春 博士 揮毫

## 授業参観・PTA総会ありがとうございました

4月29日(金)に授業参観、PTA総会、学年部会総会を行いました。感染症防止のため、5時間目のみの授業参観とし、密を避けるために廊下でも参観できるように各学年に大型モニターを設置しました。久しぶりの授業参観に、子どもたちは張り切って学習活動に取り組んでいました。

PTA総会についても、座席の間隔を広くとり換気に努めながら、体育館で行いました。多くの保護者の皆様の参加をいただいて審議ができ、保護者と教職員が顔を合わせる貴重な機会となりました。

学校とPTAは、子どもたちを育てるうえでの「両輪」です。ますます手と手を携え、生き生きと学ぶ子どもたちを育てていきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

## 令和4年度PTA活動 よろしくお願ひします

- 基本方針 子どもたちの心身ともに健全な育成をはかるため、保護者(Parent)と教師(Teacher)が互いに連携(Association)して学校・家庭・地域の輪を作り、教育力の向上を目指すとともに、会員全員で教育環境の改善と充実に取り組む。
- 活動スローガン 「自分が好き、家族も地域も大好き西根っ子」
- 活動の三本柱 (1) 親子の絆を深める活動 (2) 学校教育を充実させる活動  
(3) 学校と地域をつなぐ活動
- 今年度の役員

会長	幹事	1 学年部会長
副会長	幹事	2 学年部会長
副会長	幹事	3 学年部会長
副会長	幹事	4 学年部会長
監事	研修部長	5 学年部会長
監事	体育環境部長	6 学年部会長
	生活保健部長	



授業参観の様子



密を避けるためモニター設置



PTA総会の様子

# 「学校の機関車」としてがんばってください

4月20日（水）の全校集会で、児童会委員長と1学期学級委員を任命しました。

どの子ども、たいへんしっかりした態度で任命書を受け取ることができました。特に感心させられたことは、「がんばります」「がんばって取り組みます」など、みんな一言を添えて任命書を受け取っていたことです。「学校の機関車」としての自覚が表れているように思いました。

これからも、委員長、学級委員を中心に、みんなで力を合わせて、ますます素晴らしい西根小学校になるようがんばってほしいと思います。

令和4年度 児童会委員長		第1学期 学級委員		
運営委員長		第3学年		
健康委員長		第4学年		
図書委員長		第5学年		
給食情報委員長		第6学年		

<ミニコラム> 子どもの心とことばを育てるために（その1）

## 子どもにとって「安心する」ということ

保護者面談へのご協力、誠にありがとうございます。お子さんのことをじっくり話させていただいて、担任にとってとても貴重な機会になっています。

さて、5月の連休明けは、子どもたちにとって乗り越えなければならない一つの関門です。その関門を乗り越え、元気に学校生活を送り続けるために、子どもの心の支えとなる「安心」について、今回は考えてみたいと思います。

（このような「ミニコラム」をこれから何度か書いてみたいと思います。よろしくお願いします。）

私（校長）の感覚ですと、子どもにとって「安心する」とは、「親に守ってもらえている感覚」「親に自分のことをしっかり見てもらえている感覚」「親に自分の言うことを受け止めてもらえている感覚」「親の顔を伺う必要がなく、何かに没頭できる感覚」など、そんなふうに思っていました。

東京学芸大学の大河原美以先生は、著作の中で、ずばり次のように述べています。

親子関係のよしあしは、実は一点に集約される。それは、「子どもが困ったときに親の顔を見ると安心する」関係性が構築されているかどうか、ということに尽きる。

この関係性の重要性は、乳児から青年にいたるまで一貫している。

この関係性がゆるぎないものであれば、子どもは「不快感情を安全に抱える（＝感情抑制）」力を身につけて、安定した大人へ成長することができる。

『子どもの感情コントロールと心理臨床』（日本評論社）

大河原先生の言う「不快感情を安全に抱える」力が身につくことによって、「我慢する力」の第一歩が育ちます。「我慢する力」は「ストレス耐性」ともいえます。しかしながら、それは子どもだけの一方向的な育ちではなく、親子の関係性の中で、親子共に育っていくものだと思います。

私は、これからも子どもの心とことばの成長を考え続けていきたいと思っています。

